



移動スーパー「とくし丸」での自治体・省庁・警察と連携した被災地での救援活動・日々の見守り活動・防災の啓発



徳島県徳島市 株式会社とくし丸
スーパーバイザー 池野 成

1 移動スーパー「とくし丸」とは

買い物にお困りのお年寄り（買い物難民）を中心に、食品や日用品を販売する移動スーパーです。現在は140社のスーパーと提携し、全国で計1,165台稼働しています（2024年1月末時点）。

とくし丸の販売パートナーは個人事業主が務め、地域密着で買い物難民の課題解決を担うビジネスオーナーとして活躍しています。



移動スーパー「とくし丸」の販売パートナー

2 防災に関する取り組みについて

とくし丸では、本部と提携スーパー、現場の最前線で活躍する販売パートナーが三位一体となり、販売活動を行っています。移動スーパーの機動性の高さや行政との関係性の深さを活かした被災地支援・防災に貢献する以下の活動に取り組んでいます。

1) 日々の見守り活動

とくし丸は週に2回ほどお客さまに

販売する仕事だからこそ、お客さまの異変に気がつきます。有事の際は状況に応じ関係各所と連携した救援活動を行うことができる等、日頃から地域の見守り役として機能しています。

有事の際は状況に応じ関係各所と連携した救援活動を行うことができる等、官民連携での防災に貢献し、日頃から地域の見守り役として機能しています。



対面での直接販売を通じた日々の見守り活動

2) 防災の啓発

見守り活動の一環で、行政と連携した啓発活動を実施しています。2024年の1月中旬には、新宿区から提供いただいた防災パンフレットを新宿区で移動スーパーとくし丸を利用するご高齢のお客さまに対し配布いたしました。

とくし丸のお客さまは買い物難民＝情報難民という実態もあり、なかなか正しい情報にたどり着くことができません。各地域に根付いたとくし丸だからこそ、お客さま一人ひとりに声をかけながら、正しい情報発信に努めております。



新宿区でのパンフレットの配布による防災の啓発

3) 被災地での救援活動

自治体・関係省庁と連携し、移動スーパーの機動性の高さを活かした食料品や必要物資を被災地に届ける救援活動を実施しております。

2024年の能登半島地震に対しては、石川県珠洲市や経済産業省と連携し、被害の大きい能登半島にて食品・衣料品等の提供を2024年1月7日から開始。現地の皆さんが必要としているものを聞き取りながら、200品目ほどの商品を積み込み「選べる楽しみ」もお届けしています。

また、2018年の西日本豪雨の際には、水没したスーパー店舗の代わりに、とくし丸の車両を仮設店舗にして営業。2023年の台



能登半島地震に対する被災地での救援活動

風の被害が甚大だった鳥取県では、道路の寸断などで一時は孤立状態となった被災地を回る活動を実施しております。

3 今後の方針について

地域における災害に強い安全なまちづくりに貢献できるよう、引き続き行政と連携し、以下の取り組みを推進してまいります。

1) サステナブルな被災地支援の在り方の模索

能登半島地震の被災地支援に対して、無償から有償への物資提供への切替や、親会社であるオイシックス・ラ・大地株式会社、NPO法人及び他社メーカーと連携した商品供給が行える体制を構築し、継続した支援活動を行ってまいります。

2) 全国での防災への啓発活動の実施

被災地以外での“防災の啓発”についても取り組み、大切な命を守り被害を最小限に抑えるための備えを促す活動を全国で行っていく方針です。

3) 行政との連携の強化

今回の被災地支援は経済産業省や石川県珠洲市と速やかな連携が図れたことで、震災発生から1週間以内での救援活動のスタートができました。より一層、行政との関係を密にして、非常時における速やかな問題解決に貢献できる体制づくりに努めます。

4) 全国での台数増加によるインフラとしての拡大

平常時も非常時も地域を支える販売パートナーの募集と、商品の供給を担う各地域のスーパーとの提携を更に加速させ、稼働台数を増やして地域を支えるインフラを目指します。